

平成 30 年 9 月 10 日

第 10 回 UEJ「大学開放研究会」のお知らせ

地域の教育活動を活性化させる大学開放の役割について

平成 30 年 9 月 30 日（日） 午後 13：30－16：35
於・龍谷大学深草学舎紫英館 2 階第 1 共同研究室
（地下鉄「くいな橋」下車 徒歩 10 分）

今年は例年になく台風が多発し、各地に大きな被害を与えました。被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。

早速ながら、全日本大学開放推進機構で予定していました7月7日の第10回大学開放研究会も、台風のために開催を取りやめました。その後、研究会は早く催した方がいいという意見もあって、7月29日に設定し直したところ、また台風がきて実現することができませんでした。講師の藤田先生は富山で、私は広島で、その都度切符の払い戻しをしてもらうということになりました。これで仕切り直しが3回目になりますが、9月30日に予定していた研究会を開きたいと思います。

現在、文科省の人づくり、働き方改革等が政策レベルで進められております。地方創生、少子高齢化、人生100歳時代、AI時代、Society 5.0など新しい社会状況を迎えて、生涯学習に期待が大きくなり、どのような団体もこれからは生涯学習であると、乗り込んできている状況になってきました。

大学は、こうした生涯学習環境の急変の中で最も重要な役割を果たすことが期待されていますが、そのために当事者等の有効な学習会もほとんど開かれていない状況を見ると、果たしてこれでやっていけるのだろうかと思わざるを得ません。私たちの機構は大学開放の専門家があつまっていますので、こうしたときにこそ私たちの研究会も社会に開放して、研究と実践を結びつけるような集会にしたいと思っています。

今回の研究会から本機構の会員の方にも全員ご案内することにしました。ぜひ、ご都合がつけばご参加の程、お願い申し上げます。また、会員の方は、拾遺の会員以外の方々（講師の方、行政担当者、団体関係者、その他関心のある方）にもお声を掛けていただき、ぜひご参加を呼びかけていただければと思います。お会いするのを楽しみにしています。

NPO 法人 全日本大学開放推進機構
理事長 香川 正弘

■ 第一部 13:30 — 15:00

講演： **地域の教育活動を活性化させる大学開放の役割**

——生涯学習プラットフォームとして担うもの——

講師 富山大学域連携推進機構教授 藤田公仁子

司会 大阪教育大学教育協働学科教育心理科学講座教授 出相泰裕

[講演要旨]

現在の生涯学習政策は、「学校と地域の協働」、「ICTを活用した生涯学習」、「生涯学習の成果の活用」などに踏み込み、学習した成果が適切に評価され、社会的活用へとつなげられる生涯学習整備の基盤となるものの存在が重要であるとされています。その中で、「生涯学習プラットフォーム」が、地域の教育活動の活性化を進めていく上で、どのような機能を有し、展開していくことが望ましい姿であるのかを、大学開放セッションとして明確にしていくことが求められています。

地方国立大学における生涯学習系センターの専任教員として進めている学習プログラム開発及びシステムづくり、自己開発プランニングの方向性、ICTの活用を進めてきた地域の状況、将来的なシステム開発の方向性を紹介します。

知の開放としての生涯学習機会を提供してきた大学は、「学びの活用」についての「生涯学習プラットフォーム」が、その一端を担うことも視野に入れつつ、新しい大学開放セッションの将来像について、どのような方向に進むのかを探る時間にできればと考えます。

■ 第二部 15:15 — 16:35

共同討議 司会： 河村能夫

議題

- 問題提起 1. 大学教育に社会人が正規の学生として18%ぐらいまで占めるようになることが日本ではどのようにすれば可能であるか。
(7月の時に用意していた問題です、香川正弘提出)

◆ 参加申込み方法 ◆

定員： 18名

会費： 1,000円 (資料代等含む)

申込： 原則として「メールにて」①お名前 ②ご職業 ③ご連絡先をご記載の上、一週間前(9/23)までに事務局へお申し込みください。

※ 参加希望者で「共同討議のテーマ」のある方は、具体的な内容を記載の上お申し込みください。

【申込み・事務局メールアドレス】 shigeto.j.k@gmail.com